

みんな どこから？（小2）

～はじめての性教育～

朝輝千明（豊中市小曾根小学校）

1 はじめに

毎年、健康教育の実践を一度はやりたいと思っている。自分の生活を科学的・社会的な視点を通して学習する健康教育は、とても価値があると思う。「しんどさ」が変わるわけではないけれど、健康教育の実践を通して、違った見方ができれば何か子どもの中で感じるものが残り、子どもたちが今までとは違った視点をもつきっかけとなると思っている。

実践前のねがい

今年は自尊感情の低い子が多い2年生。発達的な課題がありいつもイライラしている子、幼い頃からおそらく叱られ通して過ごしてきた子、家庭が複雑で周りに気を配りすぎる子など、“もっとゆったりと心が落ち着いて過ごせたらいいな”と思っていた。

「いのち」のはじまりや、成長を学習することで「いのちってすごい！」「自分もこんな風に大きくなったきたんだ」ということ伝えたいと思い、性教育『みんな どこから？』の実践を行った。

2 児童について

2年1組（男子15名・女子9名 計24名）

全体とても素直で、かわいらしい子ども達。落ち着いている。生き物が好きな子も多く、中には詳しく知っている子もいて、全体に教えてくれることもしばしば。はじめての学習でも興味をもち、たくさん質問し、自分なりに考えていた。しかし、二学期あたりから子どものしんどさが大きく表面化してきた。特に3人（Aくん・Bくん・Cくん）が授業そのものへの抵抗感が強く、本人がまともに授業を受けられない、クラス全体も授業をする環境が作れない（他の子は静かに勉強しようとはしているが）状況が続いた。その子たちにもひびく授業はないのかと、『みんな どこから？』の実践を行うことにした。子どもたちは小1では、ほとんど性教育を受けておらず今回がはじめてという子もいた。中には幼稚園・保育園で詳しく教えてもらっていたり、家庭でよく話をしてもらっていたりする子もいた。

3 指導について

小2の子どもたちの視点に立ち、子どもたちが知りたいこと、疑問に思っていることを中心に授業を進めた。また、まずは自分たちの知っている動物の赤ちゃんから学習することで、人間の赤ちゃんについてはじめて知る子にも身近に感じられるように

した。保護者の方に「つつこみインタビュー」と題し、赤ちゃん時代の話全員発表し、その中からさらに詳しく授業を組み立てることで「子ども(自分)が主役」の授業で、どの子どもも興味をもてるように考えた。

4 目標

- いのちのはじまり、赤ちゃんの成長を知る。
- 自分や友だちの赤ちゃんの頃の話聞くことで、生まれてくることのすごさに気づく。

5 授業の流れ(全10時間)

はじめは動物の赤ちゃんについて出し合い、仲間分けを行った。動物の赤ちゃん(たまご)を産む数を比較し、産み方の違いや同じところを出し合った。

人間の赤ちゃんについては保護者へのインタビューを中心に、子どもたちが自分のこととして考えられるよう授業を進めた。

<授業計画>

時間	学習内容
1時	どうぶつの赤ちゃんは、どこから？
2時	たまごをうむ どうぶつ
3時	赤ちゃんをうみ どうぶつ
4時	人の赤ちゃん～知っていること～
5時	人の赤ちゃん～お腹の中の赤ちゃん・出産～…参観
6時	赤ちゃんの指と髪の毛
7時	お母さん・赤ちゃんが大ピンチ
8時	生まれてくる時間
9時	お腹の中の赤ちゃん
10時	まとめ

6 授業の様子

<第1時>

「みんなは、どこから生まれたんだろう？」「お母さんのおなかの中から」「おなかの中にたまごがあって・・・」と色々話してくれた。人の学習の前に、まず色々などうぶつの赤ちゃんについて学習することを話した。また、Kくんは北海道にすんでいる時に家で牛をかっていて(酪農)、牛の赤ちゃんがどう生まれるのか教えてくれた。

○赤ちゃんをうむどうぶつに分けられることが分かりました。

感想

○パンダがどうやって赤ちゃんをうむのか知りたいです。なぜヘビやワニやニワトリはたまごなのに、犬やライオンはたまごから生まれなのか知りたいです。ハムスターは小さいのに赤ちゃんをうんでいるからすごいと思いました。

<第2時>

たまごを産む動物について学習した。同じ卵でも、動物によって産む数のちがいが、その理由についても話し合った。

① サケのたまご(イクラ)

- ・一どに3000こ うむ。
- ・どうして海はサケだらけにならないの？→ほとんどのサケ(95%)が、食べられてしまうから。

② ワニのたまご

- ・一どに15～80こ うむ。
- ・ワニはどうしてたまごを口の中に入れるの？

→たまごを守る・ふ化をたすける

③ ニワトリのたまご

・一どに1こ うむ。(一日1こ)。

・どうしてたまご温めるの？

→たまごを守るたまごがつめたくなくなるとしんでしまうから。

感想

○サケが3000こもたまごを作っているから、すごく多く作っているから大そう。

○わたしはかわいそうだと思います。理ゆうは、サケはせっかく赤ちゃんをうんだのに食べられてしまうから。

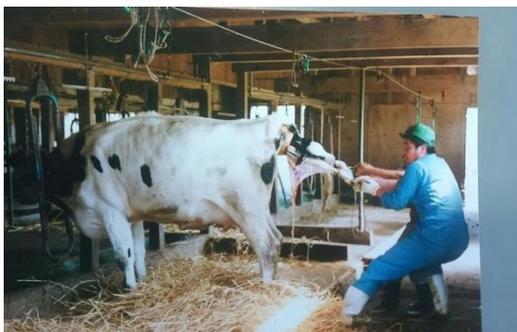
<第3時>

赤ちゃんを産む動物について学習した。Kくんが以前家で飼っていた牛の出産時の写真を持ってきてくれ、詳しく話してくれた。

① 母さんのおちち(おっばい)をのむどうぶつは？「ほにゅうるい」といいます。人間もお母さんのおっばいをのみますね。ほにゅうるいのなかまなんですよ！

② 牛の赤ちゃん～Kくんのお話～

牛の赤ちゃんは生まれる時、前足から出てきて、頭・体のじゅんに出てくるそうです。牛が生まれる時に、かじ本さんのお父さんが赤ちゃんを引っぱってお手つだいをしているしゃしんを見せてもらいました。



感想

○Kくんの話はすごいと思いました。人間の赤ちゃんは首をもたないとおれてしまうけど、牛の赤ちゃんは足を引っぱってもおれないから、大丈夫かなと思いました。

<第4時>

～人の赤ちゃん～

みんなが知っていることを出し合った。

おなかの中の赤ちゃん

- ・さいしょの大きさは点(たまご)。
- ・お母さんとホースみたいなものでつながっている。

生まれてくる赤ちゃん

- ・お母さんのおなかが大きくなる。
- ・お母さんのほねが広がる。

生まれてからの赤ちゃん(0才～2才)

- ・ずっとないている。
- ・ずっとねている。
- ・ミルクをのむ。
- ・はじめは歩けないけれど、ハイハイして、歩けるようになる。



しつもんコーナー

- ・さいしょ目がないけれど、今は何であるかな？
- ・耳は聞こえているのかな？

感想

○お母さんは赤ちゃんをうむのが大へんだな。

○今日学んでびっくりしたことは、赤ちゃんが生まれる時、お母さんのほねが広がることです。こわいけど、何かおこるかもしれないから、それが知りたいです。

<第5時>人の赤ちゃん～お腹の中の赤ちゃん・出産～…参観

参観でどの内容を学習するか悩んだ。せっかく保護者も来てくれるのだから直接子どもたちに話をしてもらおうと思い、「おなかの中の赤ちゃん」と「出産」について学習することにした。

「おなかの中の赤ちゃん」は科学的に話せたが、「出産」になると「お母さん・赤ちゃんもがんばった」「生まれてきてくれてありがとう」といった道徳的にまとめたのが反省だ。また、その場にお母さんが来ていなかった子はやはり寂しそうだったし、お父さんが来てくれた子は「今からお母さんに電話して」だとか、お父さん自身が「自分は産んでいないから分からない…」と戸惑う場面もあり課題が多かった。

感想

○今日勉強して、赤ちゃんは考えていると思いました。理由は生まれた後のことを考えていっぱい練習しているからです。生まれる時は赤ちゃんもお母さんもすごく頑張っていると思いました。

保護者の感想

○「大切にされているんだよ！命は大事なんだよ！」が子どもに伝わってくれるとうれしいあ～と思います。

○「命の大切さ」がよくわかり、親子で勉強になりました。

○家でも“じんつう”という言葉は教えていませんでした。また色々生まれてからの話をしてみたいと思います。

<第6時>つっこみインタビューより

赤ちゃんのゆび

○まだゆびが上手につかえず、おやつの子ボーロを何でも何でも おとしながら食べていたのが、心ばいながらも かわいかった。(Cくん)

○生まれて1ヶ月くらい

自分の手で自分のかみの毛をつかんで、引っぱってはなせなくて、いたくて、なっていた。

*ゆびをつかって、どんなことをしているでしょう？

赤ちゃん(0～2才)

- ・ゆぶしゃぶり
- ・おもちゃをもつ
- ・グーパー

自分(7～8才)

- ・字を書く
- ・おりがみ
- ・おはしを持つ
- ・じゃんけん

赤ちゃんのかみの毛

○生まれた時

かみがおでこのところでクリンになっていたから、目じるしになっていた。

たいいんする時、かみがのびていた(めっちゃ)。(Aくん)

○生まれて1ヶ月くらい

かみの毛がのびて、上に立ってきた。

*かみの毛で知っていることを教えてね。
赤ちゃん(0～2才)

- ・ やわらかい
 - ・ 少ない
 - ・ 短い
- 自分（7～8才）
- ・ かたい
 - ・ 多い
 - ・ 長い（のびている）

感想

○赤ちゃんがこんなに弱くて、今ここまで強くなったことがわかった。

<第7時> つっこみインタビューより

お母さんが大ピンチ

○生まれた後、お母さんの出血（血が出る）が4時間止まらず、お母さんのいのちがあぶなかった。「今うんだ赤ちゃんは、どうなるの？すぐに会いたい！」と思った。お母さんは一週間入院して、その間赤ちゃんに一回しか会えず、「とにかく赤ちゃんに会いたい！」とずっと思っていた。

（Bくん）

赤ちゃんが大ピンチ

○おなかの中で
よう水のみこんでしまって、生まれてすぐきゅうきゅう車ではこぼれた。21日間入院した。

感想

○産む時にお母さんがピンチになるなんてはじめてしりました。

○生まれる時

ふつうの赤ちゃんはおなかの中で頭を下にしているけど、足が下になっていた。

これは「さかご」といって、足から生まれるとキケンなので、お母さんはおなかを切る手じゅつをして、赤ちゃんをうみました。

○生まれてすぐ

生まれた時、体じゅうが1818グラムしかなくて、1ヶ月くらい「ほいくき」の中にいた。毎日お母さんがぼにゅうをとって、のませてくれた。（Sくん）

<第8時> つっこみインタビューより

長い時間をかけて生まれてきたよ

○生まれてくるまでにすごく時間がかかりました（やく一日）。大きな声で元気よくないていました。（Kくん）

みじかい時間で生まれてきたよ

○お母さんのおなかがいたくなってから、3分で生まれました。とても大きな声でなくて、元気に生まれました。（Zちゃん）

○よてい日より一日おくれて生まれてきました。夜中にじんつうがはじまり、二人目だから2時間くらいで生まれて「安産（くるしまないで出産すること）」でした。

○次女で、はじめての出産ではなかったの、生まれてくるじんつうのタイミングも分かり、わりとすんなり生まれてきました。

感想

○ぼくは赤ちゃんが一番目やに番目で生まれてくる時間が全然ちがうことを初めて知りました。Kくんは1440分もかけて生まれてきたからすごいと思いました。

<第9時>



おなかの中の赤ちゃん

胎児のイラストを交え、おなかの中で赤ちゃんがどのように成長していくのか学んだ。また、インタビューとも交えて、子どもたちの質問にも答えた。

感想

○わたしは2ヶ月はもっと大きいと思っていました。でも2~3cmと聞いてビックリしました。

○さいしょは豆粒だったけど、赤ちゃんになるんだね。

<第10時>

今までの学習を振り返って、心に残ったことや不思議に思ったこと、面白かったことを書いた。終わりの感想を書いた。

感想

○赤ちゃんは不思議だと思う。理由は3週間では点だから。7,8か月でだんだん動いていくから赤ちゃんはすごいと思う。9,10か月で顔が下向きになるから、赤ちゃんはすごいと思いました。お母さんもすごいと思う。

○ぼくは2人目だから生まれるのが早かったけど、Kくんとかは一日かけたり、すごい早い人は3分くらいで生まれてきたりしているから、人それぞれですごいと思う。生まれる時、お母さんのほねが広がるなんて初めて知りました。陣痛は赤ちゃんが生まれてくる合図だけど、ほねが広がるなんてすごく痛いと思う。

赤ちゃんははじめ点だったけど、虫みたいになって、だんだん人間っぽくなっていくから面白い。

7 実践を振り返って

この実践で、子どもたちは何が得られたのかすごく悩んだ。気になる3人は最後まできちんと授業は受けられなかったが、お家の方から赤ちゃんの頃・出産時のことを聞かせてもらうととても大事に育てられてきたことが分かった。3人に焦点を当てすぎると授業が進まないし、周りの子の話が全然聞けない。私(教師側)の思いを強要しすぎたのかなと思うし、むずかしい。この授業で、ずっと命・お母さんについて触れてきた。特に闘病中の母を抱えるCくんに関しては「しんどかった」のかもしれない。授業ではふざけていたが、感想を聞くときしっかりと考えているのでつかみどころがなく、難しかった。

参観で取り上げた出産時の母子の気持ちは「命ってすばらしい」ということを押し付けてしまった。科学的な事実から迫って息、毎回の子どもの感想・興味を大切に、じっくり一つ一つ取り上げると子どもたちももっとのめり込んだのではないかと振り返る。いつも目の前の子どもの感想より、計画を中心に進めてしまうので改めたい。